

食品ロス削減に向けた取組

1 食品ロスの現状

食品ロスとは「まだ食べられるのに捨てられてしまう食品」のことです。食品ロスは国内で年間522万トン（令和2年度推計）発生していると言われ、一人当たりに換算すると、日本の全国民が毎日お茶碗1杯分のご飯を捨てている計算になります。

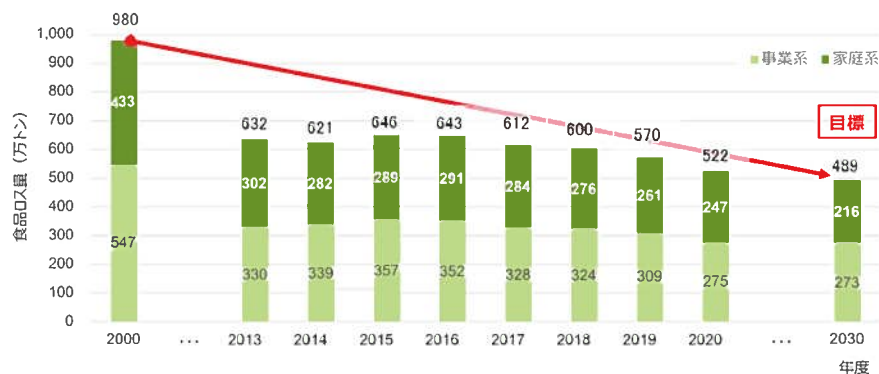
国内の食品ロスのうち、約53%（275万トン）は食品メーカーや小売店、飲食店などの事業系から、残りの約47%（247万トン）は一般家庭から発生しています。

国では、2030年度に、2000年度と比べ、家庭系食品ロス量、事業系食品ロス量いずれも半減できるよう取組を推進しています。

日本の食品ロスの状況（令和2年度）



食品ロス量の推移と削減目標



年度	2000	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2030
家庭系	433	302	282	289	291	284	276	261	247	216
事業系	547	330	339	357	352	328	324	309	275	273
合計	980	632	621	646	643	612	600	570	522	489

(農林水産省及び環境省推計)
※ 端数処理により合計と内訳の計が一致しないことがあります。

資料：消費者庁「食品ロス削減関係参考資料」

2 食品ロス削減に向けた県の取組（令和3年度実績）

本県では、県民が日常的に関わる「食」に着目し、家庭や外食店における食品ロス削減の啓発を図るため、各種キャンペーンや出前講座等を実施しています。

①ふじのくに食べきりやったね！キャンペーン（通年）



県内の協力店で料理を食べきり、店舗に掲出しているステッカーのQRコードを読み込むと、地球温暖化防止アプリ「クルポ」のポイントを獲得できるキャンペーンです。

令和3年度の県民参加数（ポイント付与数）は19,063回、食べきり協力店の参加店舗数は703店舗でした。

②手前取りキャンペーン（10月1日～12月31日）

商品棚の手前に陳列されている、賞味期限や消費期限の近い商品を率先して取る「手前取り」を促す「手前取りキャンペーン」を県内のセブン・イレブンの各店舗（一部店舗を除く）で実施しました。

商品棚に掲出しているPOPのQRコードを読み込むと、地球温暖化防止アプリ「クルポ」のポイントを獲得できます。

③使いきり実践チャレンジ（10月1日～11月30日）

調理学校やスーパーマーケットと連携して、食材保存や使いきりの工夫をまとめたリーフレット等を作成し、家庭での実践を呼び掛けました。



令和3年度はかぼちゃの皮を使った「使いきりレシピ」や「野菜の保存方法」、そのほか食材の使いきりを実践してアンケートに回答してもらい、回答者には抽選で賞品を贈呈しました（アンケート回答数：391件）。

また、静岡ガスと協働で食材の使いきりをテーマにした料理教室を開催しました。

④出前講座（10月～12月）

教育委員会と連携し、県内の小・中学生を対象として食品ロスの現状や問題を伝える講座を実施し、家庭の食事や給食での食べきりを促進しました。令和3年度は小学校4校（掛川市、静岡市、富士市、伊豆の国市）、中学校2校（藤枝市、富士市）の他、いわた消費者協会でも出前講座を実施しました。



⑤3R推進フォーラムの開催（配信期間：10月31日～1月31日）

3R推進月間である10月に3R推進に関する講演及び事例発表を行い、県民意識の高揚及び地域活動の活性化を図りました。令和3年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、対面での開催は中止とし、県公式YouTubeで講演の様子を公開しました（講師：東京家政学院大学 上村 協子氏、静岡ガスエネリアショールーム 山内 美由紀氏）。